

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800184		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ神陵台		
所在地	兵庫県神戸市垂水区南多聞台3丁目2番2号		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果市町村受理日	平成26年7月24日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先			

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成26年6月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・2014年は、「季節を感じる暮らし」を目標に掲げて、目標達成に向けて取り組んでいる。 ・入居者様のニーズを反映した企画を入居者様と共に作り上げて行けるように日々、コミュニケーションを取っている。 ・入居者様には尊敬の念をもって接し、高い質の接遇を持って対応する事を目指している。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ建物内の小規模多機能型居宅介護と一体的に運営されており、各種イベント・行事などを協力して催すので、利用者同士で知り合う機会が多いというメリットがある。また、両事業所の管理者はベテランと新任を組み合わせて先を見た人材育成面も配慮されている。 ・運営推進会議は家族の参加が多く近隣の施設からも出席があり、意見交換が活発である。また入居者に押し花を教える近隣の押し花教室の先生も運営推進会議に住民代表として出席される。・食事時に皆と一緒に食べるのが難しい方には、個別対応で、好きな時間に好きな食べ物を提供し、経口摂取を心掛けている。月3回の食事レクリエーションは、敷地内の畑で収穫した野菜が食卓を彩るので楽しみの一つになっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関に会社の理念を掲示している。入社時研修の際、会社の理念について学ぶとともに各自が設定する課題や目標の延長線上に理念があるように日々の業務に取り組んでいる。	法人の三つの理念を玄関口に掲示している。事業所の標語を「家族も共に支える認知症に強い地域密着型サービスのモデル施設となる」とし、職員との月1回、10～15分間の面談では振り返り等の最後に職員のケアがこれら理念や標語に沿っているか確認し合う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方が押し花教室の講師として定期的に来訪して下さる。また、一部の入居者様の日課となっている散歩の際、近隣の方と挨拶を交わすことでなじみの関係を築きつつある。	地域とのパイプ役を務める方が先生をする押し花教室には、出来るだけ参加者をお誘いしている。6名ほどの方が、毎朝、時に夕方、近隣を30分～1時間位散歩するが、たまに地域の方にお会いし挨拶を交わすこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護についての相談受付は、パンフレットや掲示板等で案内をしている。ただ、直接の相談自体はあまり見られていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。家族様や地域の知見を有する方に参加して頂き活動内容の報告を行う。また、参加出来なかった家族様には議事録を送付し情報の共有を図っている。	1階にある小規模多機能型事業所と合同で開催する。利用者の近況は丁寧に報告され、ご家族からの意見も出る。下肢筋力低下の予防体操、ハロウィンでの慣れぬ仮装などの話しもあった。	家族から「お互いに相談する機会があれば」とか、「よそのお宅はどうされているのか」等の意見が出ています。運営推進会議とは別に、家族同士が話し合える家族の集いをイベント開催日などに合わせて用意してはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のグループホーム連絡会には積極的に参加している。その他、市や区の開催する研修にも参加し交流を図っている。	自治体が月1回のグループホーム連絡会に参加、連携している。神戸市主催の感染症対策等の不定期研修会等にも出席している。コンプライアンスについては法人として担当部署が当たっている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に行う新入職員研修や年に1回以上行っている高齢者虐待研修を通じ身体拘束しないケアについての知識を深めている。駐車場の出入り口は施錠しているが、1階から3階は自由に往来できるようになっている。	庭には食材にも利用するきゅうり、トマト、ナス等や花があり、庭に出るときは職員がそつと付き添う。職員の入職時、入職後も定期的に身体拘束についての研修を行い、感想文を書くことで理解度・認識度を確認している。	リネン交換の商業車が来て門扉を開いた時の高台の開放感は得難いです。夏に駐車場を開放してラジオ体操をしたそうですが、一日のうちのひと時でも計画的に門扉を開放する時間を持つてはいかがでしょうか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の新入職社員研修や、高齢者虐待研修を年に1回以上行っている。また、脱衣時に身体状況の確認をすることや日頃の精神状態を観察し、注意を払い防止に努めている。	月1回10～15分の職員面談はグループホーム連絡会での助言によりストレス軽減にも役立っている。一般に虐待としない言動でも、「不適切ケア」として厳しくとらえている。行政から虐待防止に関するDVDを借り研修に利用している。脱衣時に身体状況の確認をしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新入職員研修の際、権利擁護や成年後見人制度についての研修を受けている。必用な方がいれば個別に情報の提供をしている。	一人の入居者がこの制度を利用しており、後見人の行政書士が1か月に1回程度来訪し金銭管理を行っている。この制度については入職時の新人研修ならびに、その後の勉強会で定期的に取り上げている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約の締結時に直接説明するとともに、不明な点は疑問点についても逐一お答えし、解消している。	契約時には入居契約書、利用契約書、重要事項説明書等を中心にして説明する。「重度化した場合の対応に係わる指針」については、利用者の状態から必要と判断した場合は医療、看護体制等も含めて入居時に説明することになっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議後の時間を使い、気軽に話を出来る雰囲気家族様のご意見やご要望をお伺いしたり、個別で往訪時に別室で話をお伺いし運営に反映させている。	運営推進会議は家族にとって一方的な報告の場ではなく、自由に意見を交わしている。訪問が少なかった家族に入居者の「タオルケットを利用したい」との希望を伝え、訪問のきっかけを作った好例もある。家族会の設立は他事業所等の意見を聞きながら前向きに進めている。	イベント開催時の前後などに運営推進会議とは別に、短時間でも事業所と家族だけが集まって話し合う場をもってはどうでしょうか。家族の力を借りる良い機会ともなります
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングや全体ミーティングを通じて問題点とその解決方法について話を行っている。また、日々の業務中でも現場のスタッフから各フロアリーダー、主任を通じて管理者に意見や提案が上がっている。	月1回の管理者と職員の面談、月1回のフロア会議等で職員からの意見や提案等に耳を傾けるようにしている。最近では服薬介助時の薬と飲み物の併用禁忌について問題提起があり課題としている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤明けは原則として公休日としており、体力的な負担のかかりにくい勤務形態を組んでいる。また、月一度の個別面談を通じて各自の設定している課題について進捗を共有し評価をしている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時期や、過去の実務経験に応じ研修を行っている。(認知症実践者研修・管理者研修・介護福祉士になるための研修など)また、事業所内では職員が学びたいと思っている研修を行うことで知識の向上を図っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域で開催される研修会に参加し相互での情報交換する。また、社内でもグループホーム間の交流会を催し横との繋がりを図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご契約前の面談の時点より生活の様子を伺ったり、生活歴を聞き取るなどし、少しでも変わらぬ生活を送れるようにしている。また、どのように暮らしたいかや不安に思っていることなども伺えるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご契約前の面談の際に、ご家族様からもお話を伺い、ご要望等を聞き取れる様にしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で聞きとった内容をもとに必要と思われる支援を施設内外問わず導入できるよう、ご入居までに検討している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあくまで入居者様の生活をサポートすることが役割であることを十分に理解して接している。また、お互い対等の立場で接するようにしている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	入居者様に外出や購入希望の物があれば今ま でと変わらずご家族と共に出かけられるよう連 絡・支援を行っている。また、入居者様にとつ てのご家族という存在や役割の大きさをお伝えし、 協力して頂ける様に話をする機会を作っている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様を含めた馴染みの人との交流を積極 的に推奨していく。以前お住まいだった場所 の近くのスーパーまで買い物することも行 なった。	生活場面でこれまで馴染んできた関係を継 続できる支援をしており、以前住んでいた地 域にあるスーパー「イオン」に同行し「洗濯洗 剤」等の買い物をしてきた例がある。事業所 の1、2周年記念には、駐車場の確保をきつ かけに近くの焼肉屋等と気楽に話せる関係 が出来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	各個人の他者との関わり方を尊重しながら 支援を行なっている。(多数での関わりを好 まない・望まない入居者様もいらっしゃる)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も電話や手紙などで連絡を取 り、入居者様や家族様の様子を伺い必要な 時には相談に乗れるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	居室内もご自宅で過ごしていたように暮らせるよ うになじみの家具等を持って来ていただいでい る。直接聞けるときは本人様にご意向を伺い、困 難な時はご家族様に伺ったり生活歴などから想 像し、本人らしい暮らしの継続に努めている。	契約時に入居前情報、基本情報等を詳細に 聞き取り、本人の思いや意向の把握に努め ている。意思疎通が困難な場合は、家族から の情報や過去の生活歴、普段の表情や様子 等からやりたい事や好きな事を読み取り、本 人らしく暮らせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	利用前に行った面談時にその人らしい望ま しい生活についてヒアリングを行っている。 その後も、生活歴や生活習慣も把握しようと 日々コミュニケーションをとっている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や、体調の変化を観察・記録し次の時間帯の職員へ申し送りを行う。必要に応じてカンファレンスを開催し情報を共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を通じて得たそれぞれの利用者の情報を、現在の介護計画と比較し未達項目のギャップを埋める努力をしている。	入居後情報、アセスメントを元に介護計画を作成し、月2回のフロアミーティングやカンファレンスなどで振り返っている。半年ごとのプラン見直しだけでなく、モニタリングを通じて、体調やニーズの変化などの実情に合った支援ができるよう随時プランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を出勤時に把握するようにしている。変化や気づきについては計画作成担当者に報告を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時における送迎車両の手配(通院等)や、立替購入(着替えや嗜好品など)等、応えられる限りのサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急搬送先として医療機関との連携をしている。その他の資源については十分に活用できていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は事業所の提携医療機関のほか、今までのかかりつけ医を利用して頂いている。また、本人の希望する医療機関を受診することを前提としている。	本人や家族が希望するかかりつけ医で受診している。提携医療機関の往診は月2回ある。歯科医の往診は毎週で、口腔ケアや嚥下機能評価を行っている。皮膚科往診は毎月ある。通院には家族が付き添うが、無理な場合は事業所が支援している。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化を介護職員から看護職員へと報告している。また看護職員は、かかりつけ医や協力医療機関の医師と相談し、適切な受診が出来る様に支援している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員や看護師などと連絡を取り合い入居者様のまんてん堂での生活の様子をお伝えしたり、治療経過を伺い、退院後の支援を検討できるように情報収集を行っている。	入院された時は入院先医療機関に心身や生活に関する情報を提供し、見舞いにも伺う。又、できるだけ早期に退院できるよう、また早期に以前の暮らしを取り戻せるように医療関係者らと協働している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明している。また、状態の応じてご家族様、本人様、医療関係者とこまめに話し合い、意向に沿った支援ができるように取り組んでいる。	これまで2件の看取りをした。看取りの指針に基づき、本人や家族の思いを大切に、医師と連携をとりながら職員全員で取り組んだ。重度化した場合の対応指針を共有し、カンファレンスを開き、意向に添う密着したケアで本人と家族が納得のいく支援ができた。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応一覧を貼り出すとともに、職員間でも話し合いをするようにしている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の総合訓練を行なっている。(消火・避難・通報訓練)また、グループ法人(明石魚住・明石大久保・須磨区)への避難受け入れ態勢も整っている。	年2回、入居者も参加する総合訓練(消火・避難・通報訓練)を行なっている。本社から配られた緊急時の「災害発生チャート」を事務所内に掲げ、災害対策マニュアルも備えている。備蓄も有り、近隣の同法人経営の事業所とは、常時協力体制にある。	近隣住民に出来ること出来ない事を運営推進会議メンバーの近隣代表と相談し、緊急避難時には支援して頂けるような訓練メニューを考えてはいるかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を人生の先輩として敬意を持って関わるようにしている。	入居者の尊厳を大切にストレスをかけないよう、接遇研修を行い、日々の言葉がけについて職員同士常に気をつけている。プライバシー確保の面では、就寝時は居室のカーテンや鍵をかけて休まれる方もいる。職員の訪室は必ずノックして許可を得てから入っている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望やニーズを把握するためにコミュニケーションをとり、複数の選択肢の中から自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事、入浴など入居者様のペースに合わせて対応している。(将棋好きな方には近くの福祉施設に行って対局していただいている。)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服は入居者様ご自身で選んでいただいている。化粧品なども好みのものを使っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は入居者様の起床時間に合わせてお出ししている。下膳やテーブル拭きなど出来ることを一緒にしていただいている。	月3回の食事レクリエーションはキッチン・見守りパートと一緒にテーブルを拭き、皿を洗う等出来る事を楽しんでやっている。又、食材となる野菜の収穫時期を心待ちにしている。食事摂取の難しい方には好きな時に好きな食べ物を提供し、少しでも経口摂取出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は毎日チェックを行い十分に摂取できるようにしている。また10:00頃のティータイムや、15:00のおやつの際にも水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。また、毎週木曜日に歯科往診があり、そこでも状態の確認を行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを用いて、個々の排泄パターンを把握し排泄の誘導を行っている。なるべくオムツの使用を減らすように援助している。	食事量、水分量、血圧、活動状況等が把握できる24時間シートで1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう、タイミングを見逃さないようにしている。行動に移る前後に声かけをして、パット使用量を減らす工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いものや乳製品、十分な水分量の摂取及び、適度な運動を通じて便秘の予防に取り組む。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や頻度は本人様の以前の生活習慣に沿ったものになっている。(毎日の方から2~3日に1度の方までおられる)	入浴は個浴であり、午前、午後、夕食後など入居者の希望の時間に入浴できるよう支援している。長湯の好きな方、血圧高めの方等、好みや体調を考え、季節ごとに部屋の温度や湯温を調節している。入浴時は職員との会話の弾む場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間など個々の入居者様の状況に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を保管し薬について把握できるようにしている。服薬ミスの無いように、配薬は複数の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃のコミュニケーションを通じて、入居者様の得意なことを把握し、役割を担って頂く。また、個人ごとの趣味・嗜好を理解し取り組んでいただける環境を作っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ神陵台

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や、駐車場の花を見に行くなど日常的に外出をしている方もおられる。また、買い物もお声掛けをして一緒に行っていたり、機会を増やすように取り組んでいる。	買物や喫茶店、公園や敷地内の畑には毎日のように散歩している。近隣職員の情報で地域の敬老会や障害者施設のイベントに参加したり、将棋が好きな方は他施設の将棋好きな方との交流がある。又、美術館やコンサート等行きたい所への支援もしている。	五感刺激のための外出など、重度の方のための外出支援のやり方も工夫されてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替えで対応しているが、ご自身で支払いをされている方もいる。(小遣い程度の自由に使える金銭を所持していただいている入居者様もいる。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があれば入居者様が電話をかける援助や電話の取次も行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感を感じられる工作物やカレンダーなどを掲示している。また、温湿計を設置し快適な空間を提供できるように配慮している。	リビングは明るく、季節を感じる折り紙細工や貼り絵、皆で外出したときの入居者の笑顔の写真等が飾られ、和める場となっている。テレビ前のゆったりとしたソファで食後の一時を過ごされる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の他、リビングには椅子やソファを配置し思い思いの場所で過ごせるように配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りの品々を持ち込んでいただき入居者様が居心地よく過ごして頂けるように配慮している。	昔から使い慣れた家具や衣装ケース、ソファ等を持ち込み、好きな芸能人の写真を貼ったり、安心して居心地のよい環境を作り、1人ひとりの個性を生かした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は入居者様ご自身でしていただき過剰な介護にならないようにしている。入居者様お一人お一人のペースで過ごして頂けるように支援していく。		